

ケアのある
風景



株式会社東急イーライフデザイン

グランクレール芝浦 ケアレジデンス

都会の真ん中で
自分らしく暮らす^レを
叶える場所

株式会社東急イーライフデザインが運営する
介護付有料老人ホーム「グランクレール芝浦ケアレジデンス」は、
都内で初めて歩行リハビリに力を注ぐ施設だ。
そんな同施設の日常を紹介する。



晴れた日には施設近くの運河沿いを歩くことも



筋力維持や関節可動域・柔軟性改善に向けてリング体操を行う

歩行のための リハビリ機器と 楽しみながら行う 運動の両輪で 「歩く」を支える

港区芝浦。東京モノレールが走り、品川や渋谷へのアクセスも良い、まさに都心の「一等地」だ。そんな芝浦の運河沿いに建っているのが、介護付有料老人ホーム「グランクレール芝浦ケアレジデンス」。

10階建ての同施設は、自立している高齢者が入居する「シニアレジデンス」と、要介護認定を受けた高齢者が入居する「ケアレジデンス」に分かれている。そのため、もし認定を受けたとしても住み替えができ、転居することなくそのまま暮らし続けることが可能だ。実際、夫婦で入居したもののどちらかが認定を受けたため、一方は「シニアレジデンス」のまま、もう一方は「ケアレジデンス」に移った事例があるという。

そんな同施設最大の特徴は、「歩行リハビリ特化型」の施設ということ。今年の8月より同施設を運営する株式会社東急イーライフデザインと、自立支援に特化したリハビリ型のデイサービスを運営する株式会社ポラリスが業務提携を結び、東急イーライフデザインはもとより東京都内の有料老人ホーム初の試みとしてリニューアルした。高齢者の歩行に特化したリハビリを受けられる環境を整えるため、もともとリビング・ダイニングの共有スペースだった5階を、リハフロアとしてリフォーム。



手を上に伸ばす動作をスムーズにする「チェスト」



いすからの立ち上がりをスムーズにする「ホリゾン」



支配人の
岩崎ひろ子さん



機能訓練指導員の
江波戸寿樹さん



リハビリの間も、休息と水分補給は欠かさない

そして、ポラリスと株式会社モリトーが共同開発した歩行機器「3連P・ウォーク」や生活動作をスムーズにする「パワーリハビリ機器」を導入し、入居者が「自分の足で歩ける」ようサポートしている。既に入居している人は週に2回、8月から入居した人は週に5回リハビリに取り組んでいる。

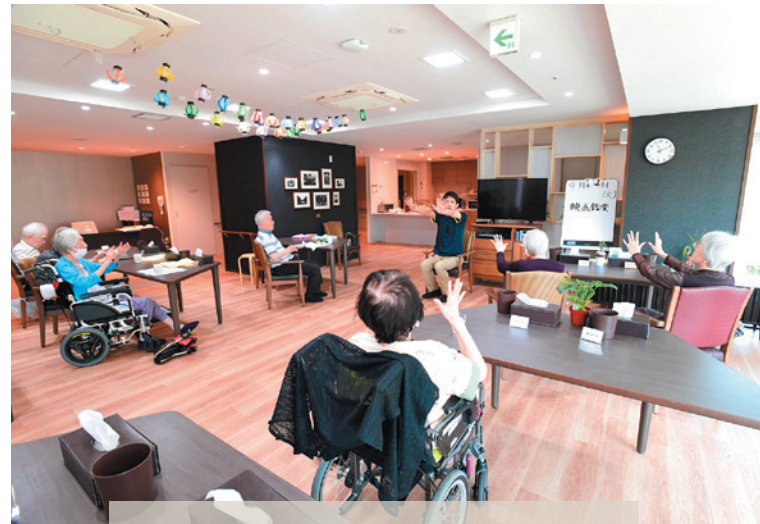
「これまで見学に来られた方も『リハビリはどのくらいできますか』という質問が多いので、やはりリハビリに対する期待の大きさを感じています。ゆくゆくはリハビリを続けることで介護度が改善できたならば、在宅復帰が実現するところまでもっていきたいというのが目標です」と、支配人の岩崎ひろ子さんは話す。

同施設の目玉である「3連P・ウォーク」は、吊り下げ（免荷）装置が付いており、普段車いすを使う人でも背筋を伸ばした姿勢でリハビリができる。職員も常に2人付き、安全性も担保。実際に「3連P・ウォーク」で歩行のリハビリを行っている入居者の表情は、真剣でありながらもどこか楽しそうな雰囲気がかがえる。低負荷の運動を繰り返し行う「パワーリハビリ機器」は全部で6機種を備えており、入居者の体力に合わせてリハビリの内容を設定できる。軽いリズムミカルな動きの全身運動で、歩行に必要な基礎体力の向上を図っている。

機能訓練指導員の江波戸寿樹さんは「リハビリには機器を使うので、初めは積極的に取り組んでくれるかわかりませんでしたが、一生懸命に楽しんでくれるようサポートしていきたいです」と抱負を語った。



言語聴覚士の指導のもと、定期的に口腔体操を実施



簡単な体操も食事前に行う



リハビリを担当する職員の皆さん



最高齢だという女性。「娘とまた歩きたい」と夢を語る



四季を感じられるさまざまなアクティビティも用意



株式会社東急イーライフデザイン グランクレール芝浦 ケアレジデンス

●東京都港区芝浦4-18-25

TEL 03-6453-9271

URL www.grandee.com/carelist/shibaura-care/

2020年にオープンした介護付有料老人ホーム。定員はシニアレジデンス52人、ケアレジデンス88人。株式会社ボラリスと業務提携し、歩行に特化したリハビリサービスを東京都内の有料老人ホームとして初めて提供している。



自立支援の 5つの要素を 推し進めて 入居者の夢を 実現させる

同施設を運営する株式会社東急イーライフデザインでは、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授が提唱する「自立支援介護理論（水分・食事・排泄・運動）」に睡眠を加えた5つを基本ケアと位置付け、「イーライフデザインケア」として実施している。もともと水分補給を積極的に行っていたが、なかなか活動量を増やすことができずに苦戦していたという。

そこで、今年の夏から歩行リハビリを取り入れたことで活動量が増え、摂取する水分量も増やすことができた。そして今後は、活動量が増えたことで睡眠や排泄といったほかの要素へどのような影響を与えるのか、検証していきたいとしている。

「当社が掲げている5つの要素は、高齢者の身体面や精神面に影響を与えようと考えられており、確実にケアを行うことで仮にADLに問題があったとしても、解決できるとされています。また、デイサービスに通われている方と比べて、入居されている方は介護度が進んでいる方が多いですし、施設に入居すれば食事の栄養や水分量の管理ができるので、ADLの回復については介護度の改善につながるのではないかと、期待しています」（岩崎さん）

歩行リハビリのサービスは、まだ始まったばかり。そのため、今後も入居者によりリハビリに励んでもらうための環境整備を進めていくつもりだ。そこでまずは、職種や担当フロアを越えた職員間での情報共有をより充実させていきたいと、岩崎さんは話す。ボラリスのデイサービスでは機器を扱うのは介護職員だが、同施設ではリハビリを強化するため新たに機能訓練指導員を採用し、リハビリフロア専門の職



シックで落ち着いた色のインテリアが並ぶリビング・ダイニングと談話スペース

員を配置した。

「リハビリを重ねたことで日常生活にどのような変化が生じたのかを検証するためにも、リハビリを担当する職員と居室フロアを担当する職員との連携を強くしていければと考えています。そして、ご入居者の『〇〇に歩いて行きたい』といった目標を叶えるためのリハビリを強化していきたいです」と、岩崎さんは力強く語る。